

(様式1)

平成29年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 029	提案機関名 畜産技術センター
要望問題名 オガ粉に代わる有効な堆肥化副資材	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等）】 家畜ふんを堆肥化するには、水分・物理性・比重調整のための副資材としてオガ粉を用いるのが一般的であるが、近年オガ粉の入手が難しくなり、堆肥化が上手くいかない畜産農家もある。 書類等の紙類をシュレッダーにかけたものも利用されているが、全面的にオガ粉の代替とはなりえない。そこで、オガ粉に代わる有効な副資材、可能ならば、水分・物理性・比重調整のみでなく、畜舎内の敷料としても活用できる資材について検討・研究願いたい。 また、製品となった堆肥を副資材として利用(戻し堆肥)している例も多いが、物理性・比重調整が難しく、戻す堆肥自体の水分量が多い場合もあるので、戻し堆肥を用いた効率的な堆肥化モデルの確立も願いたい。	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ②畜産技術センター ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考 オガ粉以外でも、カカオ粕やコーヒー豆皮等の入手も難しくなっている。	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	畜産技術センター	担当部所	企画研究課
対応区分	<input checked="" type="checkbox"/> ①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名 (①、②、④の場合) 家畜ふん堆肥時の副資材使用量削減及び水分低減方法の検討			
対応の内容等 家畜ふんを堆肥化するには、水分・比重調整が必要であり、そのため資材としておが屑が一般的に利用されており、水分・比重調整の際、通気性を確保する条件を満たしていなければ、堆肥化は遅延し堆肥化処理が上手くいきません。おが屑の代替えとなる敷料については、事例集が取りまとめられていますので参考にしてください(備考)。 また製品堆肥を副資材として連続的に用いる方法として化石燃料により得られた熱風を堆肥の下部から送風し、低水分化した戻し堆肥を利用する堆肥化方法が確立しております(備考)。本法では、おが屑を用いずに堆肥化が可能ですが、燃料費が高みます。 そこで次年度より今後おが屑の入手が困難になることを想定し、おが屑の使用量を削減した堆肥化技術や低コストで製品堆肥の水分率を低減する技術について検討して参ります。			
解決予定年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考 中央畜産会：2016, おが屑の代替えとなる敷料の事例集 安富政治・山岡俊幸：2004, 温風を用いた家畜ふん尿混合堆肥化施設の実証, 京都府畜産技術センター試験研究成績			